

朝日連峰

## 野川五貫沢越口沢

手嶋

【日時】 2011年8月13日(土)～14日(日)

【メンバー】 L飯田、手嶋、福永、佐藤

昨年のお盆にこの流域に行き、降雨量100mm以上/日に見舞われほうほうの態で逃げ帰った。予報を見ていた下山連絡先には大きな心配をかけてしまった。しかしあれはひどかった。安全なはずのブナ林が、保水力がパンクするとそこかしこから水がしみ出し、少しでも低いところにたまる事態になるのを初めて知った。まあいい経験だった。

今年はそのリベンジだ。予報は問題ない。不安要因も可能な限り排除した。例えばそこで前泊するとまず天気が悪くて入山できない「道の駅いいで」に前泊することは避けた。これだけでも成功要因の60%くらいはかせいだと言ってよかろう。

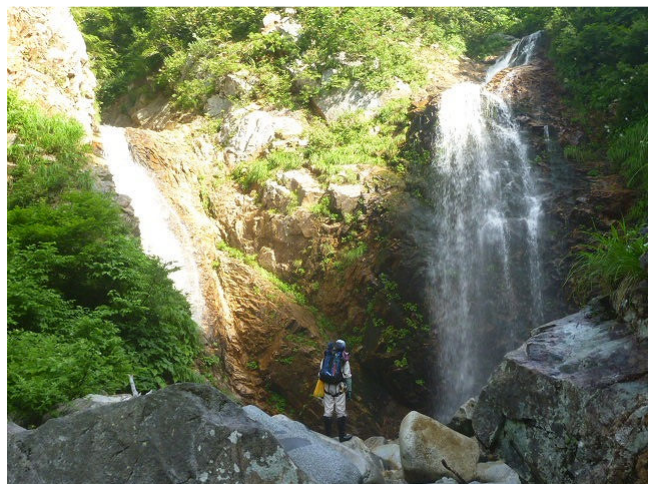
ということで、前夜近くの道の駅高畠に泊まった我々は、木地山ダム奥を目指す。ここ朝日の南部でも先日の豪雨の影響が少し心配されたが、全く問題なくクネクネ道を祝瓶山荘まで入ることができた。

登山道から野川右岸高みの踏み跡に行く。堰堤のところまで野川に降り立つ。ここから広く穏やかなゴロが続く。途中からルアーを出してみた。が、全く魚は追いかけて来ない。飯田のテンカラにもアタリなし。ちなみに名人飯田がルアーをふるっても同様だ。ということで、今日はイワナは休業日だということになった。

途中通り雨に合うものの、特に問題なく昨年のテン場にたどりつく。見ればやはりいいテン場だ。普通ここに泊まるよなあ、などと福永と話す。結局今回は少し先の右岸のブナ台地に素晴らしい物件を

見つけ、ここを今宵の宿とした。まだ陽が高く、まったりと過ごす。ルアーを持って上流に出かけた飯田には、やはり釣果はなかった。

ここから先は未知の世界、気持ちを引き締めて出発だ。最初に現れる6mは大きな釜を持つ。ここで飯田のテンカラにヒット。私も借りてみると、2回のアタリが。しかしエサ釣りの遅





合わせに慣れた私は、どちらもバラしてしまった。

この滝とその上の3mの滝を楽しく越え、さらに4m滝を越えると二俣になり、両門状に大きな滝がかかっている。我々の行く手は左だ。この滝は登れず左から巻きに入る。なかなか降りることができずにゴルジュの出口で懸垂になってしまったが、下から見て判断したとおり、ここは滝のジャスト落ち口に

下りるべきだったのだろう。

現れるゴルジュの中の滝を越えていく。8m滝は右からザイルを使って登る。しばらくゴーロが続くとやがて溪相が険悪になり、ガッコ沢と越口沢との出合に到着した。飯田が「確か以前の会山行で、小暮パーティはガッコ沢に行ってますよね。ならうちは越口沢に行きましょう。」ということで、「だね。未知の方へ行きましょう。」と何の疑いもなく越口沢に行くことになったのだが、実は彼らの行っていたのは越口沢だった。我々は全くの勘違いをして、ガッコ沢を未溯行として残してしまった。



ガッコ沢には短いが頑強そうなブリッジがかかっている、奥に連瀑帯が見える。かくいう越口沢もブロックの乗っ越しがいやらしく、その先は連瀑で、最初の6mは登ったもののその後の連瀑は右から高巻き、最後は懸垂になってしまった。

続くゴルジュ出口のCS4mの滝は高巻きは不可能。突破するしかない。ここは左側のすみを飯田がシュリングをかけて何とかはいずり上がる。ラストでお助け紐にすがって行ってみると、何とも厳しいところだった。

その後2~3滝を越え、2段15mは下段を登り上段は右の側壁を飯田が登り、上からザイルをたらす。ここまでがこの沢の核心だろう。この先沢は穏やかになりゴーロが高みへと続いていく。稜線ももう指呼のうちだ。

最後で間違いをおかした。源頭部は草原になっているという沢である。二俣を右に入ればそうになっていたのだろう。我々は左に入ってしまった。そして最後ルンゼ状の結構



立ったスラブになってしまった。アクアステルス底を履いている飯田と私は気持ちよく登れるのだが、フェルト底にはちよいきつい。途中の灌木にザイルを固定し、福永と佐藤にはゴボウで登ってきてもらった。

が、まあこれはちょっとした愛嬌。その後すぐに稜線登山道に到着したのだった。沢中では源頭部に泊まって明日ゆっくり下山しよう、と話していたのだが、いい場所が結局なかった。そして登山道途中で広い地形で沢を横切るから、そのあたりで焚き火をしようとなった。しかし飯田が「車に戻ればビールが3本あるよ。」と言ったその一言で、今晚泊まる場所は誰も異論をはさむものがなく、決まったのだった。

ここからの縦走路がしんどかった。西陽がメチャ暑い。しばらく歩いて私がおかしくなりかけた。すでに福永はおかしくなっていて、急いで止まり日よけを強化した。途中の大玉山は150mの登りだ。ここで飯田がバテた。そして最後佐藤はつま先の調子が悪く、登山道後半で歩みが遅くなった。

そんなこんなで全員代わる代わるにバテたりしながら、車に着いたのは20時半となってしまった。しかし明日はもう義務はない。この時間からのんびりと宴会が続いた。

【グレード】3級上

【行程】8/13 祝瓶山荘(9:15)～入溪  
(9:50)～途中釣りでのんびり～ヌルミ沢手前テン場(13:35)

8/14 テン場(5:55)～ガッコ沢  
出合(11:30)～稜線登山道  
(14:55)～祝瓶山荘  
(20:35)

【地図】羽前葉山

